

# みず そうじゃ 水辺の がっ 楽校 こう

## ●高梁川

高梁川は、花見山(新見市千屋)にその源がある。途中、成羽川や小田川とい



った支流と合流し、満々とした流れを見せながら、瀬戸内海へ流れ出る全長110.7kmの川である。総社市内では、市域を東西に二分するように流れている。

## ●水辺の楽校

水辺の楽校は、子供たちの水辺での遊びや自然体験を豊にしてもらおうと、国土交通省が進めるプロジェ

クト。そうじゃ水辺の楽校は、平成13年1月、そのプロジェクトに登録され、国土交通省が約2年の歳月をかけ整備した。

完成したそうじゃ水辺の楽校は、総社大橋から下流約1.2kmまでの間の高梁川の右岸側河川敷に位置する。広さは約35ha。水辺の楽校としては屈指の広さだ。

楽校の中心は、ワンド

(入り江のようなもの)やカヌー用の水路とデッキ、遊水路、芝生広場、木橋がある上流部である。

また、楽校内の約9割は元の自然のままである。散策道の途中では、心なごむ景色を見ることがもできる。

## ●楽しみ方はいろいろ

「楽校」と書いて「がっこう」と読む。水遊びや水と

ふれあえることのできるこの場所で、楽しみながら何かを得てほしいとの願いが「楽校」という言葉に込められている。

あたりを見渡せば、遠くに見える古代山城・鬼ノ城のほか、伊与部山や正木山、鬼身山、福山などといった、かつての歴史舞台を仰ぎ見ることができる。

また、四季折々の草木とともに、その時々川の表情の変化を楽しむことができるなど、楽しみ方は、利用する人それぞれの創意工夫したい。

## ●母なる川

私たちの暮らしを川という視点でみると、飲料水をはじめ、農業や工業、漁業、水運など川からの恵は多大なものがある。この水辺の楽校では、川のせせらぎを耳にし、川面の輝きに目を細めながら、私たちの暮らしに欠かすことのできない「母なる川・高梁川」を実感してほしい。

